

<2019年度 ハローオリンピズム事業>
オリンピック教室

実施報告書

**神奈川県 横浜国立大学教育学部附属
横浜中学校**



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年6月4日 (火)

■ク ラ ス : 2年A組 (45名) 、2年B組 (45名)

■オリンピアン : 加藤 和 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・加藤先生から自己紹介した後、運動の時間では皆と一緒に体を動かして、座学の時間では加藤先生の経験を通して3つのオリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) を伝えるので、オリンピックについて皆に考えてもらいたいと授業の流れを確認。「チームで協力する」「チームの目標達成の為に1人1人が考えて行動する」ことを目標とし、準備体操に移る。

・じゃんけん勝ち抜けを2回実施。

3. 主運動



・大縄跳び (90秒×3回) を2班ずつ3チームで実施。全員跳びか、8の字跳びかをチームで選択し、90秒間で一番多く跳べた回数を発表。

・各回終了後に、より多く跳ぶ為にはどうしたらよいか作戦タイムを設けて話し合う。

4. まとめ



・ゲームの目標を振り返り、「チームで協力する」「チームの目標達成の為に1人1人が考えて行動する」ことが実践できていた。チームで協力することを忘れずに、これからもいろいろなことに挑戦してほしいと伝える。

・座学の時間では、運動の時間がオリンピックバリューのどれに当てはまるか考えながら授業を聞いてほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・3つのオリンピックバリューについて、自身の経験を踏まえて話したいと授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューについて、エクセレンス「卓越」「全力で取り組む」「努力する」「ベストを尽くす」「諦めない」、フレンドシップ「友情」「協力」「思いやり」「仲間」「チームワーク」、リスペクト「敬意/尊重」「感謝」「お互いを理解する」と伝える。

3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、自分やチームの仲間の行動がどのオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。
- 発表：「失敗しても諦めない」「苦手なことにも全力で取り組む」「跳び方を工夫する」「反省を活かして目標を設定した」（エクセレンス）、
 「皆で声を掛けた」「協力してより良い手段をとる」「率先してまとめ役になった人がいた」「良い雰囲気を作ってくれた人がいた」（フレンドシップ）、
 「お互いの意見を聞き合った」「相手チームにも拍手を送る」「失敗を責めずに1つの目標に向かった」「チームに関係なく互いに褒め合っていた」（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆の日常生活にも取り入れることのできる価値観であり、悩んだ時は3つのオリンピックバリューを思い出すことでヒントを得られるかもしれない。オリンピックバリューを心の片隅に置き、夢を実現するために役立ててほしいと伝え、授業終了。

■期 日 : 2019年6月4日 (火)

■ク ラ ス : 2年C組 (45名)

■オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・鶴岡先生から自己紹介をした後、今日は「オリンピックがどんなものかを探る」、「今の自分よりさらに向上するためにはどんなことが必要かを見つける」ことを約束し、運動の時間は①全力で取り組むこと、②クラスの仲間と協力し合うこと、③ルールを守ることの3つを約束し、準備体操に移る。
・ストレッチの後、ボール回しゲームを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて、8の字跳び (90秒間×3回) を実施。引っかかりたら0から数え直し、90秒間で連続して跳べた回数を競う。
・各回終了後に結果発表・作戦発表し、作戦タイムを設け、より多く跳びためにはどうしたらよいかを話し合い、目標回数を決めてから挑戦した。

4. まとめ



・この後の座学の時間でオリンピックについてより詳しく勉強していくが、この運動の時間で、どんなことが役に立ったのか、このクラスが良くなるにはどんなことをする必要があるのか、1人1人感じ方は違うと思うけれど、運動の時間で感じたことも忘れずに臨んでほしいと伝えて、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・「オリンピックを探ること」と「自己向上するための目標を見つけること」の2つの授業の再確認。トリノ大会の映像を見せながらパラレル大回転のルールや特徴について紹介し、クーベルタンやオリンピックズについて説明。
- ・オリンピックバリューについて、自身の経験を踏まえエクセレンス「卓越」「全力」「積み重ね」、フレンドシップ「友情」「協力」「やる気になる一言」、リスペクト「敬意、尊重」「ルールを守る」「サインに目を配る」と伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、どのような点が良かったかオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「全力でやるからこそ向上心を持って取り組めた」「改善点を次に活かして大切なことに気づくことができた」(エクセレンス)、「一致団結」「皆で協力して向上していこうとすること」(フレンドシップ)、「ミスしても責めず励ますことができていた」「周りに目を配ることで皆の意見を活かせる」(リスペクト)

4. まとめ



- ・皆がグループワークを通して考えたことは、クーベルタンが唱えたオリンピックズと重なる。オリンピック出場に向けて練習を積んだりメダルを目指したりすることは、より良く生きるための中間地点であり、その姿を見て自分たちも何かを頑張ろうと目標を立て目指していくことが大切である。東京2020大会で選手達が頑張っている姿を見て感動し、自分はどのような目標を持つか、この先の人生をどのように生きるか考えてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年A組



2年B組



■ 集合写真
2年C組



■ 記念品贈呈
2年A組



2年B組



2年C組



■ 修了証贈呈

